

プロジェクトの終わりではなく始まり
～たくさんの本に触れてほしい～

なかなか進まないプロジェクトにとっても悩むことがあります。フェリシモさんの助成金を受けたプロジェクトで(わくわく扉プロジェクト)もそのうちの一つです。学校内にあるオフィスと呼ばれる倉庫に書架を設置して本をその書架にたくさん置き、子どもたちが本に親しむ時間が取れるようにと2年前に助成を受けたプロジェクトです。書架の扉を開けるときの、今日はどんな本を読もうかな、あの話の続きはどうなったかななど扉を開ける時のわくわく感、本を読む時のわくわく感を想像して名前をつけたプロジェクトです。最初のカーペンターに依頼した2年前、書架は依頼した設計図とはまったく異なるものとしてオフィスに置かれました。何度も作り直すように学校側に言っても「●●がないから」などの返答ばかりで、これは私が自分の考えを押し通そうとすることがよくないのでは？郷に入っては郷に従えという言葉がありますが、とても悩みました。その書架は、古い木材で作られ商店に置かれている棚でした。これを書架(本棚)として認め使えばいいのかとずいぶん悩みました。悩んだ末に出した答えは(自分の想いは貫き通す。自分で信頼ある人に依頼する。)でした。かつて机を依頼したことのある仲介人に書架を頼みました。設計図より高さがある書架の完成となりましたが、本を置く保管するという点に関しては、十分良い木材で作られていました。本は、アクラにある輸入の本を取り扱う本屋さんを日本人に教えてもらい購入しました。その本を届けたのが5月23日でした。ラッカーのニオイの残る真新しい書架に本を入れている時にうれし涙がこみ上げてきました。ここまで来るのに2年もかかったけれど、書架が完成して本を入れることができたからプロジェクトは終わりではないんだと改めて感じました。涙が出てくるのと同時に新たな想いも生まれました。この書架いっぱい本を置きます。この先ずっと少しずつでも本が増えるよう、子どもたちが本に触れる時間が増えるようにまだまだ頑張り続けます。 ガーナ挨拶 No 27

2019年6月22日 国分敏子

